

新宮山彦ぐるーぷ第2119回

南奥駆道・行仙宿↓東屋岳の巡視

◇実施日… 2021年3月14日(日) 晴

◇参加者

新宮発…沖崎吉信、児島道夫、濱野兼吉、豊嶋寛、松本吉殖、畑林

秀味・清子、生熊千満子

本宮町…江頭健次郎、Alena Eckelmann

溪友会…吉岡章(奈良)、柳内利次(堺)

奈良県…高橋桂太

大阪府…野崎肇、梶野照雄、今中三恵子

三重県…山川治雄、岩本信行、高階鈴子・美根子、

20名

毎回の行事参加者数は7〜8人が普通で、多くても10人程だが、最近の行事では15人、17人と多くなり、今回は20名の大所帯となった。溪友会の吉岡章、柳内利次の両氏の他、江頭君もパートナーのAlenaさん同伴で参加、今中さんと野崎さんも参加申し込みを頂いた。人数が多いと直近にキャンセルも出たり、迎えの車両調整等でバタバタしたが、なんとか当日を迎えた。

朝8時前に全員が登山口に集合。私から本日の組分け、作業内容や注意事項などを説明し行仙宿へ向かった。途中、川島前代表の急逝現場で線香を供えて合掌、送電線下の伐採地から薪を手に行仙宿

に到着した。



補給路登山口で



線香を供える



行仙宿に到着



お堂で勤行



本日の参加者

到着後、Alenaさんに導師をお願いして、お堂で勤行、心経を全員で唱えた後、本日の作業安全と世界平和、そしてコロナが早期に納

まるように、と締めくくって頂いた。

車両回送の3名（沖崎、畑林、松本）で見送り、17名が笠捨山方向に出発した。

### 【行仙宿・車両回送班】

3名でまず昨年12月にひっくり返しておいた雨水槽を元に戻す作業を行う。30〜40分で3カ所の雨水槽を元通りにした。続いて畑林君に小屋内の整理やお湯を沸かすことをお願いして、沖崎、松本の二人で水場に降りる。水場径や水場に異常は無く、持参したジョレンやノコの出番は無かった。水場の水量も豊富で、各々7リッターのポリタンを小屋に運んだ。

お昼前になり、管理棟横で薪火を囲んで昼食を摂る。話は尽きないが予定時刻が近づき、午後1時半過ぎに下山する。

沖崎、吉岡、畑林の3台に各々が乗り込み約9km先の距離標483、東屋岳登山口に向かう。下山予定時間午後3時の5分位前に到着、昨年はここで2時間ほど待ったので、今回も一時間位は覚悟していたが、到着して10分ほどで山川さんの「おい」との声が聞こえた。下山した山川さんによると、あと10分で全員降りてくることだった。ほぼ予定時刻通りで長時間待つことは無かった。

この日は先日崩落で通れなくなった池郷林道に続き、R168風屋で崩落通行止めがあり、迂回路としてR425を利用する車が多かった。

20人の多数の参加、初対面の方もおられるし、女性も6名を数える。

今回のコースは地藏岳前後にクサリ場が続く。年も重ねてきているし年々大丈夫かと、その心配度も高くなっている。

安全第一、無理するなの方針からも今後の参加者をコースによって限定・選別をする必要もあるか。皆さんをR425で出迎えたが、何事も無くホツとしたものだった。

（記；沖崎）

### 行動タイム

08:45 下北山村役場 09:14 白谷林道ゲート 11:10 持経宿 ↓ 12:36 平治宿 13:13 → 14:00 持経宿 14:48 → 15:26 白谷林道ゲート

### 【笠捨山班】

Atsugaさんの勤行後、記念撮影を終えて旧通信道班と笠捨山班17名は出発。私は沖崎さんより連絡用の無線機を預かる。



旧通信道分岐

テープを付ける

笠捨山々頂

尾根道の奥駈道を吹き抜ける風は冷たい。10分ほどで旧通信道分岐に着き、旧通信道を行く5名と別れ、笠捨山に向け奥駈道を南下する。八代金剛童子の檜を写真に収める、私は、何百年も風雪や雷



雨にさらされながら耐えてきたこの木が好きで、いつも生きる希望を与えてくれる、と畏敬の念を抱いている。



葛川辻

スプレーでマーク

少し進むとアセビの木が道を塞いでおり、山川さんがチェーンソー切り払う。この道は昨年11月末に摩看板の設置で通ったばかりなので、それほど問題になる個所は無いが、笠捨山の登りの中腹にある標識を付けた場所にトラロープを張り、道を右側に誘導するようになり、とのことで児嶋、岩本の両氏が倒木を利用してロープを設置する。児嶋さんは赤テープを随所に巻かれて、道迷いの防止策を講じられた。作業しながらなので、先行の皆さんとはかなり遅れて笠捨山々頂に到着。小休止の後、旧通信道班が待つ26番鉄塔を目指して下り始める。テープを巻く作業をしながらなので、皆さんとは少し遅れたが、ほぼ予定通りに鉄塔に到着。先着組は昼食の最中、「コジマカフェ」もオープンしたが、今日はコップが不足で全員には行き渡らなかった。

昼食後、最難関の槍ヶ岳・地藏岳を越えるので、気を引き締めて出

発した。

(記：濱野、写真：岩本)

### 行動タイム

09:15 行仙宿→09:25 旧通信道分岐→09:35 八大金剛童子→11:10 笠捨山々頂→11:50 葛川辻→12:05 26番鉄塔

### 【笠捨山捲き道(旧通信道)班】



池郷林道の崩落現場

白谷トンネル

池郷林道が崩落して通行できないとの情報があったので、少し早めに家を出て林道の様子を見に行った。崩落は池原から1km 足らずの所で、高さ10mほどの所から林道を含めた全体が池郷川に落ちてしまっていた。斜度は40度位で、車は勿論、歩いても通過することは不可能だった。その後白谷トンネルの通行止め解除を確認して登山口に向かった。



行仙宿を出発、捲き道分岐で笠捨山班と別れて4人で捲き道（旧通信道）を行く。後ろから呼ぶ声が聞こえ、Alenaさんが捲き道を通ったことがないので、一緒に行きたいと申し出られ、5名で捲き道を行くことになった。



ロープを付け直す

奥駈道に合流

笠捨山班が到着

24番鉄塔先のベンチで小休止。2月21日に倒木処理に来たばかりなので、登山道の状態に変化は無い。落ちていた枯枝を除きながら進む。吉岡さんが外れていたロープを付け直してくださいました。

奥駈道に合流するまでに斜木を2本切除、登山道に異常は無かった。奥駈道に出る手前で、笠捨山班から連絡があり、5分後に山頂を発することだったので、奥駈道分岐で皆が降りてくるのを待った。15分程で先頭が到着し、皆がそろったところで26番鉄塔広場を目指す。ちょうど12時に鉄塔広場到着、風の当たらない南側で昼食とした。児嶋さんと岩本さんはテープを付けながらで、5分程遅れて到着した。



26番鉄塔で昼食



倒れた標識を立て直す



クサリの点検



地蔵岳西側のクサリ



突き出た木を切る



四阿之宿

昼食後、地蔵岳を目指す。高橋君が電源巡視路を行きかけた。標識の杭が腐って倒れていて、踏み跡がはっきりした巡視路に惑わ

されてしまう。倒れていた標識を立て直し、奥駈道のアセビを一本切って道を判りやすくした。

地蔵岳周辺のクサリ点検は、児嶋、岩本の2名が最後尾で行った。シヤツクルに緩みがないかを確認し、確認済みの個所にスプレーで印をつけた。2ヶ所に若干の緩みがあった。

地蔵岳前後にも倒木は無く、クサリの途中に突き出していた枯れ木を2ヶ所で切断しただけだった。

東屋岳に到着、先発組は殆どが下山に向かっていて、Aienaさんを含む4名が休憩していた。後続は児嶋さん等3名がまだ到着しておらず、4名が発出した後四阿之宿跡まで戻って後続を待った。5分ほど待つて児嶋さん等が到着、下山を開始する。



間伐されていた

R425に降りる

補給路登山口に帰着

R425までの植林帯は間伐が行われたようで、まだ葉が緑色の杉が多数横たわっていた。登山道にかかる所は切り除けられていて、以前よりも道が判りやすくなっていた。

国道迄休まずに歩いて一時間弱で下山し、沖崎さん等の出迎えを受けた。

(記：梶野)

#### 行動タイム

09:25 旧通信道分岐→11:22 奥駈道分岐 11:38→12:00 26番  
鉄塔 12:40→13:25 地蔵岳→14:10 東屋岳→15:08 R425→15:  
36 補給路登山口